

---

# ヒエラルキー

柊鏡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヒエラルキー

### 【Nコード】

N6434F

### 【作者名】

柊鏡

### 【あらすじ】

二十一世紀の初頭を端緒に、近年日本で発達した和製カースト。

進は低カーリストからの脱出をせんと望んだ。

毎日毎日、上位カーリストからは人として見てもらえず、嘲笑のムシロで、あまつさえ、国民を守るべき警官も職務質問にかこつけて、進をいびる。彼は我慢ならなかった。

インド起源のカーリストとは違い、二十一世紀の初頭を端緒に、近年日本で発達した和製カーリストは一生固定されているわけではない。生涯で一所に留まっている人間の方が珍しいくらいだ。

根性さえあれば、如何にかなるのだぞと思いい、進はスポーツジムへ向かった。

意気揚々とした足取りだったのだが、それは直ぐに挫かれた。受付嬢は入会書類を彼に渡し、記入した彼のカーリストを見て、眉を顰めたのだ。嘲りと誇りとが、見下す眼差しから見て取れた。

「ダメです。まずは、身分庁に申請してください」

進は仕方なく、身分庁へ向かった。

職員は彼に侮蔑の眼差しを送りながら、気だるそうにしながらも一応は職務であるので、

「明日、審査に行きます」と言った。

和製カーリストは移ろい易いから、審査が早い。

彼は早速ワンルームの自宅へ戻って、物品整理を始めた。

まず、本棚を見た。

色取り取りの文庫本が並び、実にカラフルな棚を隅から隅まで見てから、まずは銀の背表紙の文庫本を全部引っ張り出して、クズ籠に放った。

何度かその作業を繰り返すうちに、本棚は殆ど空っぽになってしまった。隅っこに講談社新書が少しだけ残っていた。

文庫本だけでなく、ハードカバーすらも放り込んでクズ籠は直

ぐに飽和した。アパートのゴミ置き場まで何往復かした。肩が凝った。運動不足だった。

次に、彼は部屋の壁を見た。

タペストリーやポスターを何枚か剥がし、捨てた。

そして、言った通り翌日には身分庁の監査がやって来た。

彼らは進の部屋を覗き、

「大丈夫そうだな」

と言ったが、部屋の片隅のパソコンを目に留めて、唸った。

お互いに囁きあってから、進の許諾も取らずに、彼らは進のパソコンを立ち上げて、しばらくディスク内のデータを漁ってから、

「ダメですね」

と言った。

仕方ないので初期化した。すると、彼らは満足したようで、「おめでとう」と言って、帰った。

それで、何とか、進は最下級カーリストを脱した。

翌日、スポーツジムへ再度赴くと二日前と同じ受付嬢はにっこり笑って、

「はい、結構です」

と、書類を受領した。

ジムに入ると、優男から屈強な男、男勝りそうな女から、シェイプアップしている女まで、汗を流していた。

とりあえず、進は自転車を漕いだ。

何度か背筋や胸筋を鍛えてみたが、直ぐに疲れてしまった。乳酸

ばかりが出て、脳内麻薬が出る気配がない。

休息所で、ポカリスエットを飲んでいると、一人の男が進に話しかけた。

「疲れますよね」

「ええ」

「皆、楽しいんですかね」

男は天井を仰いだ。

「皆、楽しいんですかね」

男は天井を仰いだ。

「皆、楽しいんですかね」

男は天井を仰いだ。

男は天井を仰いだ。

「どうなんでしょね」

「ストレスが溜まりますよね」

「ぼくは、そうでもないですよ」

進は初日だったから構わなかったし、男の言う事が不理解だった。しかし、そのうち、ストレスが溜まった。

中級カーリストになったので、バカにされる事はなくなったが、何かが引つかかった。

二週間ほど経って、うつかり、進はスポーツウエアの下にキャラ入りTシャツを着込んでしまった。

監査員は、クローゼットまで調べなかったからだ。男性カーリストにとって、衣類の趣味はあまり関係ないらしい。

その進のシャツを見て、すっかり休息中の話相手になってしまった、男は喜んで言う。

「それ、コミケで限定でしたよね」

「ですね」

「私も欲しかったなあ」

男は遠い目をした。

そんな会話をしていると、いきなり二人は誰かに怒鳴られた。

進が声の方を見ると、二週間前会った監査員が立っていた。彼もジムに通っているようだ。

彼は、即座にケータイを取り出し、二言三言告げて、数分後、進と男は警官に連行された。

「身分詐称だ！」

薄暗い取調室で警官は捲くし立てた。

「何がですか」

進は反駁したが、有無を言わせず、

「そのシャツが証拠だ！」

と警官は言った。

「オタクは普通着ません」

進は正論を言ったのだが、警官は意に介さず、進を殴った。

「暴力だ！」

「お前はもう、最底辺カーストだ！」

結局、ボコスカに殴られて、進は家に帰った。

壁にはだるまピンの後と焼けていない壁紙の跡しかなく、味気ない伽藍洞の部屋が虚しかったが、何となく、もう、上位カーストに未練はない気がした。

翌日、身分庁から手紙が届いた。

「あなたは、オタク趣味人です。よって、趣味的身分カースト法に基づき、オタクカーストとします。オタクカースト人は、以下の権利を持ちません」

最後まで読まず、クズ籠に放り込んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6434f/>

---

ヒエラルキー

2010年11月27日20時46分発行